

新宮町相島を訪ねて



相島と飛行機

八月、四〇人程の仲間と玄界灘に浮かぶ相島を訪ねました。町営渡船で一七分、島を一周する道路は全長五・四キロメートルという小さな島です。三日月形で、天然の良港をしています。

島の誇る歴史のひとつが朝鮮通信使（室町時代～江戸時代、全一七回）の寄港地だったということ。対馬・壱岐を経て江戸へ向かう朝鮮李王朝の使節を福岡藩が接待したのです。江戸時代の第九回は享保四年（一七一九）、將軍吉宗の時でした。



朝鮮通信使客館跡之碑

この年は三度の台風に遭遇し、通信使出迎えを準備中の相島を二度目の台風が襲いました。士分の一二名、水夫役の四九名が溺死しました。

動員された船を守るために、命をかけて努力した六一名の戒名を記した巨大な位牌が、神宮寺に納められていました。

山頂の太閤潮井の石は不思議な存在です。両手で抱えきれないような自然石が、うずたかくゴロゴロと不規則に積み上げられています。伝承では朝鮮出兵の折に、兵士達が戦勝祈願に手で持って山道を登ったというのですが……。遠見番所は福岡藩が対外防衛のために置いた監視哨で、



61人の戒名を記した位牌

海岸線の向こうに見える、穴をくりぬいたような岩礁は高さ二〇メートル。空洞は荒波によって生じた天然の景観で、県指定名勝となっています。

島に渡ったのは二度目ですが、今回は相島歴史の会という強力な助っ人がいて、効率よく見応えのある史跡を回れたのは幸いでした。



鼻栗瀬と積石塚群



太閤潮井の石

異常があるとのろしで合図したので、今は石垣だけが残っています。島の北東側に開けた波打ち際には、一面に石が敷き詰められていました。古代の遺跡「積石塚（＝古墳）」です。調査の結果、二五四基が確認されました。一部、石積みを復元しています。確かに、土で古墳を築いても荒波に洗われては元も子もないことでしょう。四世紀～七世紀、およそ三〇〇～四〇〇年にわたって築かれたものということです。



遠見番所跡



復元された積石塚